39. 地域のまちづくり

名張市は 2003（平成 15）年に新たな決まりをつくり，当時の公民館単位の地域に「地域づくり委員会」が結成されました。そして，「住民が自ら考え，自ら行う」まちづくりが始まりました。

1．まちづくり～市民センターを核に～

2009（平成 21）年，地域の組織が今までの区や自治会の「基礎的コミュニティ」と「地域づくり組織」に整理され，翌年に設立された「鴻之台希央台地域」の地域づくり組織を含め，名張市に 15 の地域づくり組織ができました。

そして，2012（平成 24）年にそれぞれの地域づくり組織が，地域の特性を生かした個性ある将来のまちづくり計画として「地域ビジョン」を作成しました。そこには，防犯・防災や福祉，環境などのテーマについて地域が取り組むべき課題が取り上げられ，防犯パトロール，自主防災隊，地域の活性化，子育て広場，コミュニティバスの運行など，地域住民がみんなで考え，協力して取り組む特色ある事業が展開されています。

桔梗が丘市民センター

さらに，2016（平成 28）年には，この地域づくり活動をはじめ生涯学習活動，地域福祉活動の拠点として，これまであった公民館が「市民センター」として，新しくスタートしました。

（1）「くにつふるさと館」・「はぐくみ工房あららぎ」

名張市の南東部に位置する国津地区は，古くから農林業が盛んで，養蚕や椎茸栽培，養鶏に取り組んできました。また，木炭の市内随一の生産地でもありました。

しかし，人口は減少を続け，２校あった小学校も閉校になりました。過疎になっていく地域の将来を心配した若者の意見も聞いて作られたのが「アララギプラン」です。名張市では最も早い「地域ビジョン」の取り組みでした。

そのプランの中から実現したのが「くにつふるさと館」「はぐくみ工房あららぎ」です。山村の良さを生かし，地元の森の資源を活用しながら，山村とまちの住民の交流や体験活動の拠点として建てられ，施設はすべて地元の木材で造られました。工房では，地元の間伐材を利用した木工作業や陶芸，わら細工，草木染めなどの教室が開催されており，市内から多くの参加者があります。2016（平成 28）年には，東京で実施された「三重のアウトドアデイ」で，小物入れ，鉛筆立ての作成のイベントが開かれ，国津地区の人たちと東京の児童との楽しい交流の場になりました。

木工教室

地域づくり組織【→P86】

（2）奈垣「村おこし市」・長瀬「たんくろ窯」

日曜日の朝，つつじが丘市民センター前の朝市会場には，新鮮な野菜を求めるたくさんの買い物客が集まっています。毎月第２・４日曜日に開催されている朝市に野菜を出品しているのは，住宅地に隣接する国津地区の「ながき村おこし」グループの皆さんです。もともとは集会所で趣味の手芸などをする女性のグループでした。空き家が増え，荒れ地になっていく畑をよみがえらせたいという願いや，孫たちに安全でおいしい野菜を食べさせたいという思いで，農業に熱心に取り組み始めました。2005（平成 17）年，住宅地内の民家のガレージを借りて始まったのが「村おこし市」です。少しずつ評判を呼び，地域の中で認められて，現在の場所で開催するようになりました。

村おこし市（つつじが丘市民センター）

野菜だけでなく，加工品づくりにも取り組み，赤飯は「ながきのおせきはん」としてイベントにも出品されています。キュウリやダイコンなどを漬物にするため，地区内に漬物作りの工場も作りました。「らっきょう」や「梅干し」が人気で，おもちが材料の「きりこ」づくりにも取り組んでいます。

野菜づくりだけでなく，加工から販売まで取り組む活動を通し，お客さんが喜んでくれることが，メンバーの生きがいになっています。小学生に「きりこ」づくりを教えたり，手作りの紙芝居で野菜作りの楽しさを伝えたりしています。

「きりこ」づくり

また，自分たちの地区で盛んだった「炭焼き」を復活させて，次の世代に残したいという思いで，長瀬地区の 20 人の高齢者を中心に作られたのが「たんくろ窯」です。

たんくろ窯の炭出し

近年，バーベキューの燃料や水の浄化等に利用されるなど，炭の需要が増えてきました。商品として販売を始めたところ，長瀬の炭は火持ちがよく，煙を出さない炭として人気が出ました。

「移住者や若い人が新しくメンバーになってくれたことや，校区の小学生に炭出しを見せられたことがうれしかった。」と，地元の人が話していました。

きりこ【→P23】

2．地域のボランティア活動

（1） つつじが丘 子育て支援ボランティア「おじゃまる広場」

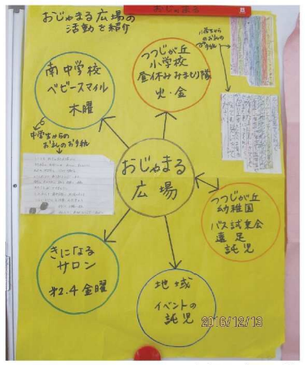
つつじが丘地域では，子育て支援ボランティア「おじゃまる広場」が活動しています。以前は育児で困っても相談する場がなく，個人的な仲間で助け合いながら子育てをしてきました。子育てが一段落した時，同じ地域内の親たちが，人とつながる力が弱く，一人で苦しんでいるのを見て，何とかしてあげたいという気持ちでこの広場を立ち上げました。こうして 2004（平成 16）年「おじゃまる広場」が正式に発足しました。幼稚園・保育園入園前の乳幼児とその家族がふれあい，親のほっとする場所にしたいという願いがありました。

広場の入口（つつじが丘市民センター）

広場での交流

広場の活動が始まると，自由に遊ぶ子どもたちと，それをゆったり見守ってくれるボランティア。いつも忙しい親にとっては，ほっと忍抜きができる時間になります。まちの保健室の職員や市の保健師が，赤ちゃんの身体測定や，健康相談などもしています。子育ての先輩であるボランティアや助産師による育児相談や，親同士の交流などが行われています。

また，広場の活動の一つに，地域内にある小学校，中学校への訪問活動があります。小学校には週 1 日昼休みに「ふれあい隊」としてボランティアが訪問し，児童との交流や掃除の手伝いをしています。



広場の掲示物

中学校へは「ベビースマイル」といって，木曜日の昼休み，図書室に赤ちゃんたちがやってきます。来室した生徒は赤ちゃんを抱かせてもらったり，地域の人と気軽に話したりしています。生徒の中には，自分も「広場」で過ごした子もおり，子育てにやさしい地域の取り組みを実感できる場になっています。

ベビースマイル

（2）すずらん台 「ライフサポートクラブ」・配食ボランティア「ひだまり」

すずらん台は，日用品や食料品を販売する店が少ないことから，買い物や通院などの移動が大きな課題でした。そこで，地域づくりの取り組みの一つとして，送迎バスを導入しました。

移動支援とともに，課題となってきたのが住民の高齢化に伴い，自分たちだけで移動したり，作業したりすることが困難になってきた家庭が急増してきたことです。そこで，送迎バスの運行が実現した 2008（平成 20）年，車での移動や生活全般を支援する組織として，「ライフサポートクラブ」が発足しました。バスでの送迎をはじめ，家事（掃除，調理，洗濯など）や，庭の手入れ（庭木剪定（せんてい），草刈りなど），日曜大工（家具移動，網戸・障子の張り替えなど）などの支援に取り組んでいます。

家事支援

庭木の剪定

大切にしていることは，サービスを受ける人もする人も同じクラブの仲間で，できるかぎり作業は共同で行うようにしています。

配食サービスひだまりのメンバー

また，地域の一人暮らしや二人暮らしの高齢者や障がいのある人などに，食事を届ける配食ボランティア活動も行われています。2022（令和 4）年には，市内の 9 地域で 9 グループが活動しています。

すずらん台では，配食ボランティア「ひだまり」が，毎週水曜日に手作りのお弁当を作って家庭に配達しています。声をかけて手渡すことで，交流を深め，孤独感の緩和や安否確認にも大きな役割を果たしています。特に心がけていることは，季節の食材を使い，品数を多くバラエティに富んだお弁当にすることで，利用者にとても喜ばれています。

ひだまりの食事会

「ひだまり」の自慢は，月 1 回市民センターで行われる食事会です。高齢者に外出する機会をつくり，ふれあいの輪を広げています。お弁当の配達，食事会の送迎，会場づくりなど，地域の多数のボランティアの力に支えられています。

こうした取り組みや活動は，各地域においても，それぞれの地域ビジョンのもとに，地域の課題解決に向けて活発に行われています。（P86 参照）

・自分たちのまちでは，どんな「地域づくり」に取り組んでいるか調べてみましょう。市民センターに行ったり，地域の「センターだより」や回覧板にも目を通してみましょう。
・自分たちのまちの子育てや高齢者のためのボランティア活動を調べてみましょう。

配食サービス【→ P49】
地域ビジョン【→ P86】